

PRESS RELEASE

2017年4月改訂版

公益財団法人小田原文化財団

「小田原文化財団 江之浦測候所」施設概要

(2017年10月開館予定)

【ご挨拶】

小田原文化財団は、古典演劇から現代演劇までの伝承・普及を図り、美術品等を保存・公開し、伝統芸能を次世代へ継承しつつ、現代美術の振興発展に努め、時代・ジャンルを越えて芸術文化を振興することにより、世界的な視野に立って日本の文化の向上に寄与することを目的とし、2009年、現代美術作家・杉本博司により設立されました。

小田原市江之浦地区は急峻な箱根外輪山を背にして、相模湾に臨み、類い稀なる景観を保持している貴重な自然遺産です。2017年10月オープン予定の「小田原文化財団 江之浦測候所」が、小田原市との協力関係のもと、芸術文化の発展と地域社会の活性化に広く寄与することを願っております。

公益財団法人小田原文化財団

---

<一般のお客様お問合せ先>

公益財団法人小田原文化財団

email:info@odawara-af.com

<報道関係者様お問合せ先>

公益財団法人小田原文化財団 広報

email:press@odawara-af.com

公式 website: <http://www.odawara-af.com/>

公式 facebook: <https://www.facebook.com/odawaraaf?ref=hl>

公式 twitter: [https://twitter.com/odawara\\_af](https://twitter.com/odawara_af)

杉本博司通信 twitter: [https://twitter.com/odawara\\_staff](https://twitter.com/odawara_staff)

## 小田原文化財団 江之浦測候所 コンセプト

アートは人類の精神史上において、その時代時代の人間の意識の最先端を提示し続けてきた。

アートは先ず人間の意識の誕生をその洞窟壁画で祝福した。

やがてアートは宗教に神の姿を啓示し、王達にはその権威の象徴を装飾した。

今、時代は成長の臨界点に至り、アートはその表現すべき対象を見失ってしまった。私達に出来る事、それはもう一度人類意識の発生現場に立ち戻って、意識のよってたつ由来を反芻してみる事ではないだろうか。

小田原文化財団「江之浦測候所」はそのような意識のもとに設計された。

悠久の昔、古代人が意識を持ってまずした事は、天空のうちにある自身の場を確認する作業であった。そしてそれがアートの起源でもあった。

新たなる命が再生される冬至、重要な折り返し点の夏至、通過点である春分と秋分。天空を測候する事にもう一度立ち戻ってみる、そこにこそかすかな未来へと通ずる糸口が開いているように私は思う。

小田原文化財団  
ファウンダー 杉本博司

### <杉本博司 プロフィール>

杉本博司の活動分野は、写真、彫刻、インスタレーション、演劇、建築、造園、執筆、料理、と多岐に渡る。杉本のアートは歴史と存在の一過性をテーマとしている。そこには経験主義と形而上学の知見を持って、西洋と東洋との狭間に観念の橋渡しをしようとする意図がある。時間の性質、人間の知覚、意識の起源、といったテーマがそこでは探求される。

1948年 東京、御徒町に生まれる。1970年渡米、1974年よりニューヨーク在住、2008年建築設計事務所「新素材研究所」設立。2009年公益財団法人小田原文化財団設立。

受賞：1988年毎日芸術賞、2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞（絵画部門）、2010年秋の紫綬褒章、2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ賞。

主な著書：「苔のむすまで」「現な像」「アートの起源」（新潮社）、「空間感」（マガジンハウス）、「趣味と芸術」（ハースト婦人画報社）

## 小田原考

私は小田原に負うところが多い。子供の頃、旧東海道線を走る湘南電車から見た海景が、私の人としての最初の記憶だからだ。熱海から小田原へ向かう列車が眼鏡トンネルを抜けると、目の醒めるような鋭利な水平線を持って、大海原が広がっていた。その時私は気がついたのだ、「私がいる」ということを。

私は歴史上の「もし」が好きだ。天正十八年の秀吉による小田原落城の後に、関東移封となった徳川氏が、自らの居城として選ぶべき最有力候補は、当時、関東で最も権勢を誇った北条氏の本拠であった小田原であった筈だ。しかし家康は当時寒村にすぎなかった江戸の地を選んだ。おそらく家康はまっさらな土地で都市計画をやりたいかったのだろう。しかし家康にとって、すでに立派な城もある小田原は、選択肢として魅力を感じたに違いないと私は思う。もし小田原を選んでいたら、今頃は小田原が東京で、マンハッタンや香港のような高層ビルが立ち並ぶ大都会となっていたであろう。そして東京は江戸市として、江戸湾奥にその名を留める程度であっただろう。しかし私は家康の決断を有り難く思う。小田原が東京になっていたら、今に残る美しい自然は、破壊のかぎりを尽くされていたに違いないからだ。そうならば私の人生の始まりとなる、あの海の記憶も無くなってしまふからだ。

私は何ものかに導かれるように、その私の記憶の場所を与えられた。江之浦に広がる広大な蜜柑畑だ。私はこの地に小田原文化財団を設立した。この地から世界に向けて、日本文化の精髓を発信しようと企てている。首都は東京に奪われたが、世界への日本文化発信の首都として、小田原は将来位置付けられることになる。何故ならば、縄文時代以来連続として受け継がれてきた日本文化の特質、それは人と自然が調和の内に生きる技術だ。自然の内に八百万の神々を祀りながら、日本人は独特の文化を育てて来た。今、自然破壊の限りを尽くさねば生き残れない、後期資本主義の過酷な世界の中で、いちばん求められているのが、その日本文化の技術なのだ。

小田原文化財団  
ファウンダー 杉本博司

## 【小田原文化財団 江之浦測候所 建築概要】

当該敷地は、県道740号に隣接する小田原市片浦地区江之浦の柑橘の木々が生い茂る丘陵地に位置する。箱根外輪山を背に相模湾を望み、小田原市街から房総半島、大島までが一望できる。当施設は、現代美術作家・杉本博司が構想し、国内外への文化芸術の発信地として位置づけ、ギャラリー棟、舞台、室町時代の遺構である明月門の移築、オフィス棟などから構成される。

小田原は板橋地区をはじめとして、高度な技法を有した職人集団が近世より発達し、その伝統が連綿と受け継がれている。当施設は中世から現代までの時代様式の異なる建築群を構成すると共に、現在では継承が困難になりつつある伝統的な工法・技法をここに再現するものである。

### ■所在地

神奈川県小田原市江之浦 362 番地 1

TEL: 0465-42-9170(代表)

### ■主要用途

美術館・展示施設

### ■建築主

公益財団法人小田原文化財団

### ■構想

杉本博司

### ■基本設計・デザイン監修

株式会社新素材研究所

### ■実施設計・監理

株式会社榊田倫之建築設計事務所

### ■施工

鹿島建設株式会社

### ■特別支援

ジャパン・ソサエティー(ニューヨーク)

【完成予想イメージCG】 ©Hiroshi Sugimoto+New Material Research Laboratory

※下記イメージはご掲載用データのご用意がございます。広報担当へお問合せください。



明月門



管理棟



ギャラリー棟



ギャラリー棟先端部



光学硝子ストラクチャー

## 【公益財団法人小田原文化財団 組織概要】

一般財団法人設立:平成 21 年 12 月 22 日

公益財団法人認定:平成 23 年 4 月 1 日

### <目的>

古典演劇から現代演劇までの伝承・普及を図り、美術品等を保存・公開し、又これらのものの調査・研究を行うことで、伝統芸能を次世代へ継承しつつ、現代美術の振興発展に努め、時代・ジャンルを越えて芸術文化を振興することにより、世界的な視野に立って、我が国の文化の向上に寄与することを目的とする。

### <活動の内容>

1. 自然の中に設えた舞台を利用し、古典演劇、現代演劇の企画、制作、公演及びその支援による普及振興
2. 杉本コレクションを核とした美術品等の保存及び展示公開
3. 古代から現代に至るまでの、美術品、伝統建築及び庭園等の空間芸術に至るまでの時代・ジャンルを越えた芸術文化に関する調査・研究及びその普及振興のための研究会・講演会等の企画開催

### <主な活動実績>

- |               |   |
|---------------|---|
| 2011 年 8 月    | 人形浄瑠璃文楽公演「杉本文楽 木偶坊 入情 曾根崎心中付り観音廻り」<br>@KAAT 神奈川芸術劇場                             |
| 2011 年 9 月    | 野村万作×萬斎×杉本博司・三番叟公演「神秘域 OUR MAGIC HOUR」<br>@KAAT 神奈川芸術劇場(ヨコハマトリエンナーレ 2011)       |
| 2013 年 3 月    | 「SANBASO, DIVINE DANCE MANSAI NOMURA+ HIROSHI SUGIMOTO」<br>@NY グッゲンハイム美術館       |
| 2013 年 4 月    | 野村萬斎×杉本博司・三番叟公演「神秘域その弐」<br>@渋谷区文化総合センター大和田さくらホール                                |
| 2013 年 9-10 月 | 人形浄瑠璃文楽公演「Sugimoto Bunraku Sonezaki Shinju」(欧州 3 ヶ国)                            |
| 2014 年 3 月    | 人形浄瑠璃文楽公演「杉本文楽 曾根崎心中付り観音廻り」<br>@世田谷パブリックシアター(東京)、フェスティバルホール(大阪)                 |
| 2014 年 8 月    | 2014 Singapore International Festival of Arts 公演「SAMBASO」<br>@ビクトリアシアター(シンガポール) |
| 2015 年 10 月   | 「三茶三味～三味線音楽を聴く～」公演 @世田谷パブリックシアター(東京)  |
| 2015 年 11 月   | 朗読劇公演「春の便り～能『巢鴨塚』より～」@あうるすぽっと(東京)   |
| 2016 年 11 月   | 「肉声」公演@草月ホール(東京)  |
| 2017 年 2 月    | 新作能「利休一江之浦」@MOA 美術館能楽堂  |

※ 他 所蔵作品貸し出し実績多数